

作の口小学校で第1回幼保小連携教育推進会議

作の口小学校で、第1回幼保小連携教育推進会議が行われました。

授業参観の後は、情報交換会です。子どもの様子について、「前向きな発言が多いです。これからも大切にしたいです。」「笑顔で授業が受けられていて安心しました。先生の関わりのおかげです。」「教室の中の虫かごにさなぎがいて、園と同じ環境があると思いました。」等、子どもたちの様子や「作の口小学校 架け橋期のカリキュラム」を基に、協議が行われました。

年に3回の幼保小連携教育推進会議の他、市の研修の日程、作の口小学校が夏休みの期間に行われる保育体験・保育参観、園児と児童の交流の予定等、年間の予定も共有されました。この会議が園児と児童の交流会のねらいの確認や内容についての打ち合わせとなる等、幼保小連携の年間計画に効果的に位置付けられています。園と学校との双方の協力により、対話を大切にした組織的な体制づくり、持続的・発展的な取組となっていました。

作の口小学校

幼保小連携教育推進会議

【内容】

- ①支援級・1年生を中心に授業参観
- ②小学校就学に関する情報交換
- ③架け橋期のカリキュラムについて
- ④本年度の推進計画について

【当日の参加者】

校長先生・園長先生・副校長先生
教務主任・児童指導専任、1年生担任・支援級担任・年長担任等

Point 子どもの姿を起点として



【授業参観の様子】

「ろ」のつく言葉をたくさん集めて、発表したり、ノートに書いたりしました。
「『ろ』のつく言葉を教えてください。」
「ロールパンです。」「ロールパンが好きなの？」
「ろくさい!」「6歳の人、7歳の人？」
「いくつ言葉を集められたかな?みんなで数えてみようか。」「1、2、3、4・・・14こ。」1時間の中に先生の問いかけがたくさんありました。

Point 組織的な体制づくり・昨年度からのつながり



【協議会の様子】

授業参観で見た子どもの姿や、架け橋期のカリキュラムの共通の視点になっている「自然との関わり・生命尊重」の取組について、園と学校の職員で意見を交わしました。園でたくさんの種類の植物を育てた経験や、園庭へ植えている樹木の意義、学校で個々の鉢でアサガオを育てることの教育的な意義についてのお話も聞くことができました。好奇心からの気付き、植物への愛着から責任感、自立、自分の鉢と友だちの鉢との比較など、園と学校での学びはつながっています。